2021 年度年度末報告書（実行団体）

● 提　出　日　：　２０２２年４月２４日
● 事　業　名　：　若者の木造建築学習を通じた山村再生事業
● 資金分配団体　：　一般財団法人中部圏地域創造ファンド
● 実 行 団 体　：　学生団体　加子母木匠塾
● 新型コロナウイルス対応緊急支援助成（通常枠での追加助成）の有無　：　□有　☑無

① 実績値　（実績値の対象は、基本は 2021 年 10 月～2022 年３月末）

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況 （実施した活動内容も５W１H や、参加人数等もわかるように書いてください＝別紙一覧でも可）	進捗状況 ＊
1. 社会人としての必要なスキルアップと過疎地域の活性化に取り組む状況が生まれる。	①研修会の実施回数 ②研修会の参加者数 ③カリキュラムの作成	①　年間 5 回 ②　200 人 ③　あり	2023 年 3 月	①　②今年度も 8 大学から 200 名以上の参加を得たが、コロナ禍の影響で、毎月予定していた現地での研修会は実施できなかったが、下半期も、各大学のリーダー16 名を対象にしたオンライン研修会を 5 回実施し参加者は 80 名であった。 また、地域の諸団体や OB を招いてのオンラインセミナーなども 1 回実施し参加者は 10 名であった。 ②　オンラインが中心であったが、名古屋工業大学の学生と連携し、木匠塾で活用していくためのテキスト「加子母の山と製材の話」制作を進めた。	2　計画どおり進んでいる
2. 事業を継続、発展させていくために OB 会組織を強化する。	①OB 会への登録者数 ②OB 会活動参加者数	①500 人 ②年間延べ 300 人	2023 年 3 月	①　木匠塾 OB 会の登録者数は現時点で 120 名。引き続き SNS を通じ呼びかけを行っている。 ②　OB 会活動は、2 年後の活動 30 周年に向け、活動史を発刊する計画で、編纂委員会を立ち上げ、毎月の定例ミーティング（5 回・39 名）と、11 月、3 月（2 回・12 名）には現地調査や資料整理作業を行いながら、木匠塾活動の成果を発表していく準備を進めている。	2　計画どおり進んでいる

3. 集落の機能維持活動や地域行事に学生、OB が継続的に参加する。	①集落の機能維持活動への学生及び OB の参加者数 ②地域行事への学生及び OB の参加者数	① 30 人 ②年間延べ 500 人	2023 年 3 月	① 現地での活動が制限され、数量的に目標を達成することは困難であったが、総幹事が拠点施設である松屋に長期的に滞在しながら地域住民とのつながりを広げた。を交流を草刈り作業や施設維持活動に 18 名、 ② 多くの地域行事が中止になってしまい地域住民と交流する機会は少なかったが、年末年始を過ごすイベントを開催しながら地域の風習に触れる機会を設けた。	3 計画より遅れている
4. 学生や OB が主体となり地域の将来について考え、地域への提案などを行う。	①アンケート調査実施回数 ②学生及び OB から地域への提案プラン件数	① 1 回 ②3 件	2023 年 3 月	① 現地での活動ができなかったため、アンケートは実施できなかったが、地域づくり会議や聞き取りによって課題の把握を行った。 ② 10 月には京都市内で現役学生と OBOG の座談会を開催し、今後の木匠塾の展開や地域との関り方について意見交換を行った。	3 計画より遅れている
5. 木造建築実習を通じて、国産材利用の重要性を学びながら、地域施設を整備する。	①地域要望に基づいた整備箇所数	① 年間 10 件程度	2023 年 3 月	① 夏季に予定していた合宿が開催できなかったため、全大学共同で、「水車」の共同製作プロジェクトに取り組んだ。地元の職人さんからレクチャーを受け、それぞれのキャンパスで部材を加工し、3 月末には現地で組み立てることができた。農村景観、木材の性質、伝統工法など、木造建築には欠かせない学びの要素が多く有意義な活動となった。その他、各大学でもそれぞれのキャンパスが所在するエリアで、木匠塾活動を展開し、活動の意義を広げていくことに努めた。	2 計画どおり進んでいる

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

②事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☑変更なし　□短期アウトカムの内容　□短期アウトカムの表現　　□短期アウトカムの指標　□アウトカムの目標値
3. 活動に関する報告
１．まん延防止措置のため現地での地域活動が制限され、オンラインを併用しながら地域と大学間の活動が中心となった。そのような状況下であったため、加子母や馬瀬地域の農村景観の象徴である「水車」の制作に取り組み、各大学で分散し部材の加工を行いながら、３月には現地での製作合宿を行い完成させることができた。地域で活動する場合は、PCR 検査等を実施し感染防止に配慮しながらの活動となり、地域住民の方との直接的な交流を制限せざるを得なかったが、地域住民の方々も活動に対して理解をしてくださる方が増え信頼関係が築かれていることが実感できた。 ２．OB 会組織の構築についても、加子母木匠塾活動史の編纂を通じて OB から現役学生に向けてセミナーや座談会などが企画されるなど、これまでになかった世代間の関係性が生まれてきている。10 月には京都市内で現役学生と木匠塾 OB の座談会なども行われ、今後の地域と学生そして社会人 OB のつながりについて意見交換を行った。 ３．馬瀬地域での活動については、馬瀬川プロデュースと連携し、森林整備やシイタケのホダ木づくり、農地等の保全活動用の倉庫の建築、キャンプ場の環境整備に向けての調査などに取り組んだ。馬瀬地域についても、感染防止のため地域行事もほとんどが中止になってしまったため、多くの住民の方々と交流する機会は少なかったが、会話の中から活動に関心や期待を持ってくれる方が増えていることは実感できるようになった。 ４．３月には中津川市の域学連携事業報告会にも参加し、他大学の取り組みを学びながら地域課題に取り組む重要性を再認識することができた。特に、地域版 SDGs をツールとした地域づくりや、森林空間の利活用の検討など、木匠塾の活動と関連する部分も多く今後の活動に取り入れ、今後もコロナ禍の影響を受けるが、常に最適な手法を検討しながら、コロナ後を見据えた地域活性化プランを提案し、実践していきたいと考える。 ５．地域要望に応じた木造の製作物の建築実習の実施は当面は難しい状況であるが、農村景観の保全、地域資源を活用した提案、木製品プロダクトなど、コロナ禍でも実施可能な取り組みを模索しながら、地域の方々と関係性を築き、リアルな体験を元に学んでいきたい。
6. 新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
体調管理の徹底と PCR 検査等の実施

③広報に関する報告

1.　シンボルマークの使用状況
□自団体のウェブサイトで表示している　　□広報制作物に表示している □報告書に表示している　☑イベント実施時に表示している　□その他 →「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）:
2.　広報
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等） ・岐阜新聞　「水車合作、心ひとつ」他 ・京都新聞　「交流のあずまや　学生設置」 2.広報制作物等　なし 3.報告書等 4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等） 中津川市域学連携成果発表会

④規程類の整備に関する報告

1.　事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。
□完了　　☑整備中
2.　整備が完了した規程類を web サイト上で広く一般公開していますか。
□全て公開した　□一部未公開　☑未公開 →「一部未公開」「未公開」を選択した場合の理由と公開予定日：
3.　変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。
☑はい　　□いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：

⑤ガバナンス・コンプライアンスに関する報告

1.	社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。
	☑はい　□いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
2.	内部通報制度は整備されていますか。
	☑はい　□いいえ →「はい」の場合の設置方法（複数選択可）：☑内部に窓口を設置　□外部に窓口を設置　□ JANPIA の窓口を利用 →「はい」の場合の利用有無：□はい　□いいえ
3.	利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。
	☑はい　□いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
4.	関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか
	☑はい　□いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
5.	コンプライアンス委員会は定期的に開催されていますか。
	☑はい　□いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
6.	報告年度の内部監査又は外部監査を実施予定ですか。（実施済みの場合含む）
	☑内部監査を実施　□外部監査を実施　□実施する予定がない →「実施する予定がない」を選択した場合の理由：

添付資料

活動の写真（画像データは１枚２MG 以下、3～4 枚程度）

左：国産材利用 PR イベント　　中：他大学及び地域との交流事業（京都市内）　　右：水車の共同制作